九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[2020/2021] 九州大学附属図書館研究開発室年報表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/4485340

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2020/2021, 2021-08. Kyushu University Library
バージョン：
権利関係：

令和２年度における研究開発

１　図書館による学習・教育支援に関する調査研究

室　　員　冨浦　洋一（附属図書館副館長，システム情報科学研究院教授）
石田　栄美（附属図書館研究開発室准教授）
内山　英昭（附属図書館研究開発室准教授）
山田　政寛（基幹教育院准教授）
担 当 課　利用者サービス課、学術サポート課

＜研究開発の概要＞

九州大学における学習・教育活動と連携した新たな教育支援のあり方について調査研究を行う．

＜研究開発の内容＞

1.　図書館職員および図書館TA(Cuter)との協働による学習・教育支援

研究開発室に組織された「学習・研究支援WG」による監督・指導の下，図書館TA(Cuter)の大学院生と図書館職員が協働し，学生の視点に立った学習支援を行った．図書館TA(Cuter)は，平成24年3月に図書館学習サポーター(Cuter)として活動を開始し，平成27年12月に正課外での教育支援業務を行うTAとして，学内の教育制度に正式に位置づけられた．さらに令和元年10月より，九州大学の新TA制度開始に伴い，「九州大学ティーチング・アシスタントに関する要項」で定められた，アドバンスド・ティーチング・アシスタント(ATA)として活動している．

令和2年度に実施した事業は，以下のとおりである．

1) 図書館TA(Cuter)との協働による学習支援

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け，図書館TA（Cuter）は変則的な活動状況となった．令和2年4月の活動開始を見送り，5月から在宅勤務を開始，6月に図書館ウェブサイトの質問フォームから学習相談の受付を開始した．11月より図書館への出勤を開始，12月に中央・理系の各図書館で学習相談デスクを再開した．

図書館TA(Cuter)による学習支援活動として，以下を実施した．

①学習相談デスクでの案内・指導…附属図書館ウェブサイトの質問フォームで18件，対面で16件，計34件の相談に対応した．

②Web学習ガイドCute.Guidesの記事作成…図書館TA(Cuter)による新規ガイドを12件追加した．Cute.Guidesで公開中のガイド数は197件，年間アクセス数は約121万件となった．

③講習会等の講師および補助…新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，1年生向けレポートの書き方講座・実験レポート講座・プレゼン講座の対面型講習会を中止した．代替として公開したeラーニング教材に計1,295名の受講があった．

④学生交流イベントの企画・実施…図書館TA(Cuter)が特定テーマを取り上げ企画する連続イベントCuter Cafeを計3回開催し，延べ93名の参加があった．

⑤図書館TA(Cuter)による選書…図書館TA(Cuter)が選書した資料を展示するイベントを計12回実施した．

⑥教材作成および公開…新型コロナウイルス感染症拡大の影響により対面型講習会を中止したことを受け，教材開発センター協力の下，図書館TA(Cuter)による講義形式でeラーニング教材を作成，Moodle「九州大学附属図書館」コースで公開した．

2) 教育の国際化に対応した図書館利用教育の拡充

留学生を支援する取り組みとして，以下を実施した．

・国際部主催の新入留学生オリエンテーションが中止となったことに伴い，新入留学生向け情報を集約したWebページを英語で作成し，国際部と連携して情報提供を行った．

・文献の検索方法を英語で説明するeラーニング教材「How to search for academic papers」を作成し，Moodle上で公開した．

・留学生を対象に図書館の基本的な使い方を説明する学習ガイド「For International Students」を英語で作成し，Cute.Guides上で公開した．

・Japan in Today's World (JTW)及びJapanese Language and Culture Course (JLCC)のプログラムで令和3年度来日予定の留学生を対象としたオンライン図書館ツアーを行った．

3) 基幹教育支援の拡充

九州大学が実施する基幹教育を支援する取り組みとして，以下を実施した．

・授業担当教員の推薦をもとに基幹教育用図書を選定し，中央図書館4Fの課題文献コーナーに配架した．

・学務部と連携し，全学部の新入生に対し，中央図書館の概要や新入生向け講習会を紹介するチラシを配布した．

・基幹教育を支援する講習会について，対面型での開催を中止した代替として，「レポートの書き方講座」「実験レポート講座」「プレゼン講座」「文献の探し方講座」のeラーニング教材を，九州大学のeラーニングシステムMoodle上で公開した．

・文献検索の手順をテーマ毎に5分程度で学べるシリーズ動画を作成し，教材開発センター協力の下，YouTubeの九州大学公式チャンネル上で公開した．

・全学部の新入生が受講する必修科目「課題協学」のガイダンスに際し，図書館の活用法に関するeラーニング教材を作成し提供した．さらに，担当教員からの要望に応じて，授業の中で学生が図書館を利用する際には，図書館職員が立ち会い質問に対応した．

・令和2年度高年次基幹教育科目の前期集中講義「レトリック基礎」「プレゼンテーション基礎」において，図書館TA(Cuter)2名が授業計画の段階から協力し，当日の講義補助を行った．

4) Web学習ガイドCute.Guidesによる課題解決支援

令和元年度より，国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する「レファレンス協同データベース」に，Cute.Guidesのガイド記事を"調べ方マニュアル"として登録開始した．令和2年度も継続して積極的な登録および一般公開を行い，その実績が選定基準を満たしたとして，2年連続で国立国会図書館長より感謝の礼状が授与された．

2. AIP加速研究「持続可能な学習者主体型教育を実現する学習分析基盤の構築」

九州大学大学院システム情報科学研究院の島田敬士教授を研究代表者とするJSTのAIP加速課題「持続可能な学習者主体型教育を実現する学習分析基盤の構築」（2019年度～2021年度）に，山田政寛准教授と内山英昭准教授が主たる共同研究者として参加し，プロジェクトを遂行している．本プロジェクトは，情報化社会において多様化する学びを支援し，持続的かつ能動的な学びを実践できる人材を育成するための学習分析基盤を構築することを目的としている．特に，学習者が主体的に学習教育改善の系に参画し，後学者の学習支援につながる学びが実践できるように，１）学習者の省察や弱点克服を支援するための学習分析技術の開発，２）学習者の協学を支援するための新たな学習ハブとしての大学図書館の実現，３）学習データサイエンティストの育成を支援する学習分析ツールの開発，についての研究を行っている．

内山准教授が担当する２）には，冨浦教授，石田准教授，渡邊准教授，京都大学の西岡千文助教，千葉大学の國本千裕特任准教授が参画して研究を進めており，本学関係者による令和2年度の主な取り組みは以下のとおりである．

1) 国際会議参加・発表：iConference 2021 (Online)

2) 実態調査：

・ 図書館の学習環境に関する利用者の意見収集（2019年7月16日～2021年3月31日：九州大学中央図書館きゅうとコモンズ）
・ 図書館の学習環境に関する環境測定（2019年10月1日～2021年3月31日：九州大学中央図書館きゅうとコモンズ）
・ 大学生の授業時間外の学習実態把握および学習支援サービス改善のためのフォトボイス調査の準備
・ コロナ禍における電子コンテンツ利用の動向把握

２　図書館による教材開発および著作権処理に関する調査研究

室　　員　岡田　義広（附属図書館付設教材開発センター教授）
　　吉田　素文（附属図書館研究開発室特別研究員）
協力教員　金子　晃介（サイバーセキュリティセンター准教授）
担 当 課　eリソース課

＜研究開発の概要＞
　インストラクショナルデザインに基づいた教材，教育方法の研究開発と，教材作成にかかる著作権処理問題について調査研究を行う．

＜研究開発の内容＞
1.　部局と連携した教材開発
・人文科学研究院との連携による日本史学（宮中儀礼），中国文学（史記）の電子教材，歯学研究院との連携による歯科治療トレーニング用電子教材，および医学研究院との連携による放射線治療トレーニング用電子教材，決断科学大学院プログラムとの連携による環境保全行動学習用ゲーム教材などの 3DCG や AR/VR を活用した電子教材の開発を継続実施し，完了分について公開した．
・英語化支援の一環として，電子教材著作権講習会資料・英語版について，「授業目的公衆送信補償金制度」の内容を追記・更新した．

2.　MOOC の開講
・平成 26 年度から教材開発センターが所有する独自のスタジオで MOOC コンテンツ制作に取り組んでおり，応用力学研究所・竹村俊彦教授の「気候変動と大気汚染の入門」の MOOC 制作を行い令和 3 年 1 月 13 日(水)～2 月 10 日(水)に開講した．受講者数 614 名うち修了者数 310 名と，50.5%の高い修了率を達成した．

3.　電子教材著作権処理に係る取り組み
・教員が作成した電子教材の授業利用やネット配信する際の著作権処理の考え方等を共有する目的で,「オンライン授業に向けた著作権講習会」を 4 月に 2 度，電子教材著作権講習会(全学 FD)を 12 月にそれぞれオンライン開催した．
・平成 26 年 5 月の設立時から加盟している，大学学習資源コンソーシアム(CLR)において，電子教材の著作権に関する活動を継続している．

３　九州大学所蔵資料および資料保存に関する調査研究

室　　員　川平　敏文（人文科学研究院准教授）
　　中里見　敬（言語文化研究院教授）
　　永島　広紀（韓国研究センター教授）

三輪　宗弘　（附属図書館付設記録資料館教授）
梶嶋　政司　（附属図書館付設記録資料館助教）
平　将志　（附属図書館付設記録資料館助教）
Wolfgang Michel　（附属図書館研究開発室特別研究員）
和仁　かや　（附属図書館研究開発室特別研究員）
古賀　康士（附属図書館研究開発室特別研究員）
協力教員　原口　大輔　（附属図書館付設記録資料館特任講師）
職　　員　山根　泰志　（図書館企画課企画係）
羽賀真記子　（収書整理課図書受入係）
佐方　小弓　（収書整理課図書受入係）
中村　智晴　（学術サポート課学習・研究支援係）
原賀可奈子　（利用者サービス課資料サービス係）
西　真里恵　（利用者サービス課参考調査係）
吉丸　梓　　（利用者サービス課理系参考調査係）
平野かおる　（医学図書館受入目録係）
宮嶋　舞美　（医学図書館相互利用係）
梶原　瑠衣　（芸術工学図書館情報サービス係）
古賀　京子　（情報システム部情報基盤課医学図書館デジタルライブラリ担当）
担 当 課　収書整理課、eリソース課、利用者サービス課、医学図書館

＜研究開発の概要＞

九州大学が所蔵する貴重資料，コレクション等について，由来や内容，価値等の調査や，画像及び書誌データベース作成等についての調査研究を行うとともに，図書館における資料保存・管理体制等についての調査研究を行う．

＜研究開発の内容＞

1.　雅俗文庫の公開

中野三敏名誉教授の旧蔵書である「雅俗文庫」は，平成21年度に購入，その後2度にわたった寄贈を経て， 和装本資料8,300点以上， 洋装本資料約4,400点と，その他の資料群からなるコレクションである． 川平敏文室員の指導のもと，人文科学研究院の研究員・大学院生とともに，平成22年度から継続して書誌情報の採取・データ入力を実施し公開している．

令和2年度は，感染症対策として構内入構制限が実施された影響を受けたが，199件の書誌レコードを作成し公開した．

また，川平室員が雅俗文庫所蔵漢詩文の再調査（単独）を行い，目録を作成・発表した．（川平敏文「雅俗文庫所蔵漢詩文目録（下）」（『文学研究』第118輯，令和3年3月））そのほか，人文科学府の大学院生とともに，九州大学附属図書館ホームページにて「江戸の畸人たち　―中野三敏名誉教授没後一周年記念展示―」と題する電子展示会を行った．(期間:2020年11月24日～2021年3月31日)

電子化は，歴史的典籍NW事業などにより，67冊について実施した．

2.　濱文庫所蔵戯単・レコードのデータベース化

科研費基盤研究(B)「濱文庫所蔵戯単･レコードのデータベース化と保存法の改善」(2016～2020 年度）の最終年度にあたる本年度は、以下の成果を発表した．

1)『濱文庫戯単図録：中国芝居番付コレクション』（花書院、2021）

濱文庫に所蔵される中国演劇の戯単（芝居番付）186 枚について、図版と解説を掲載した図録である（重複 3 点を除けば実数は 183 点）．さらに濱文庫に残された戯票（チケット）43 点、および映画説明書 5 点も収録した．

2)「濱文庫所蔵レコード目録」（『九州大学附属図書館研究開発室年報』2019/2020）

九州大学附属図書館濱文庫に所蔵される中国演劇の SP レコード 66 枚，LP レコード 65 枚，さらに 2008 年に追加登録された 23 枚の計 154 枚のレコードに関する詳細な目録である．

3)『中国戯単の世界 :「戯単、劇場と 20 世紀前半の東アジア演劇」学術シンポジウム論文集』（花書院、2021）

2019 年 8 月 27、28 日に九州大学附属図書館で開催されたシンポジウムの成果をまとめた論文集である．中国の戯単・劇場をテーマとした 16 本の論文、および展示会出品目録を収録した．

本科研により作成した画像および書誌データは、今後、図書館 OPAC で公開できるよう準備を進める予定である．

3. 医学図書館関係

1) ミヒェル文庫の電子化

平成３０年から受入れた寄贈資料（全４６２点）のうち、和書２２点１，５５１コマについて、拠点大学として参画している国文学研究資料館の歴史的典籍ＮＷ事業にて、電子化を行った．画像は令和３年度に公開予定である．

4. 記録資料館

産業経済資料部門所蔵麻生家文書は福岡藩の庄屋で、筑豊御三家の一つとして石炭産業を牽引した麻生家と、同家が経営した関連会社に由来する膨大な史料群である．令和2年度より「麻生家文書」整理・研究プロジェクトを開始し、記録資料館の5つ目の部門として麻生家文書研究部門が時限設置された（10年間の予定）.「麻生家文書」目録データベースの公開・充実による研究基盤の創出が活動の柱の一つとなっており、令和2年度は、データベースの公開プラットフォームを検討し、附属図書館ウェブサイト「貴重資料デジタルアーカイブ」内に設置することが決まった．また、西日本文化協会編『九州石炭鉱業史資料目録』第1巻～第11巻所収「麻生家文書」目録をPDF化し、西日本文化協会の許可を得て附属図書館ウェブサイトで公開した．

5. 資料保存関係

1) 虫害対策

中央図書館において，館内の複数箇所に害虫調査用のノンフェロモントラップを設置し，モニタリングを行った．モニタリングの結果をもとに効果的なトラップの設置箇所を検討し，翌年度以降の設置箇所を選定した．

また，受入前の資料を中心に，冷凍庫を用いた低温殺虫処理を定期的に実施している．

2) 環境管理

中央図書館・理系図書館において，引き続き温湿度の定点観測を実施している．

3) 事例報告

国立国会図書館の主催によりオンライン配信された，第31回保存フォーラム「戦略的「保存容器」の使い方—さまざまなカタチで資料を護る—」において，「保存容器さまざま: 資料移転のために作成した保存容器について」と題した事例報告を行った．

4　図書館に係る学術情報の流通および発信に関する調査研究

室　　員　冨浦　洋一（附属図書館副館長，システム情報科学研究院教授）
内山　英昭（附属図書館研究開発室准教授）
畑埜　晃平（基幹教育院准教授）
伊東　栄典（情報基盤研究開発センター准教授）

池田　大輔　（システム情報科学研究院准教授）
職　　員　宮崎　祐汰　（eリソース課eリソース管理係）
担 当 課　eリソース課

＜研究開発の概要＞
学術情報資源をより効果的に発信するために，発信機能の高度化と検索システムに関する研究開発を行う．

＜研究開発の内容＞
1.　オープンアクセスにより大量の学術文献が利用可能になり、機械学習やテキストマイニングなどの対象としても期待されている．今年度は、文献の高度な利用を目的として、主に以下の二つの手法を提案し、それぞれ国際会議および論文誌で発表した．（池田）
   1) ある分野の大量の論文を用いて、その分野における単語やキーワードの流行予測をするための指標の提案
   2) 様々な分野の論文におけるデータセット名を特定するアルゴリズムの提案

2. 研究データ管理基盤及び公開基盤に関する調査として、国立情報学研究所が開発中のGakuNin RDMを用いた研究データの管理・保存・公開の実証実験に参加し、情報収集やフィードバックを行った．また、GakuNin RDMに接続するストレージについて、機能面・運用面・価格面からの比較検討を行った．（冨浦・内山・芦北）

3. 九州大学学術情報リポジトリQIRの発信機能の高度化に関し、下記の調査及び実装を行った．（eリソース課）
   1) 本学が2020年4月に機関参加したORCID日本コンソーシアムにおいて、コミュニティ内での情報収集・意見交換等を行い、ORCID-QIR間の連携に係る要件を整理した．
   2) QIRコンテンツの国際流通性を向上させるべく、Unpaywall・Google Scholar対応及びCrossref DOIの付与のための技術的要件及び効果に関する調査を行った．いずれも当年度中に対応・実装し、その効果を継続してモニタリングした．

5　図書館における高度専門知識を有する人材育成に関する調査研究

室　　員　石田　栄美　（附属図書館研究開発室准教授）
　　岡崎　　敦　（人文科学研究院教授）
担 当 課　図書館企画課、学術サポート課

＜研究開発の概要＞
図書館職員の専門性および次世代を担う情報専門職の育成をはかるための調査研究を行う．

＜研究開発の内容＞
1. 研究データ管理に関する初心者向けオンラインセミナー「はじめての研究データ管理とそのサポート」を開催した．学内外から、研究者、学生、URA、テクニカルスタッフ、技術職員、図書館職員等、さまざまな立場の参加者が集まり、研究データ管理に対する関心の高まりが窺われた．
   国立情報学研究所(NII)の古川雅子助教による講演「研究データ管理に求められる支援スキル・支援体制」では、研究データ管理の概要のほか、職種に応じてどのような支援が求められているか、支援スキルの体系化や支援者向けの教材開発に関するレクチャーがあった．
   ライブラリーサイエンス専攻の大学院生による講演「ユーザ向け研究データ管理教材の開発とデータ管理の実態調査」では、3つのグループに分かれて、研究者の視点による研究データ管理教材の分析結果

や研究データ管理の実態調査に関する成果報告があった.

講演後は、参加者も交えて質疑応答や意見交換を行い、研究者と研究支援者の間で相互の理解を深めた．参加者から寄せられたアンケートの回答には、「支援スタッフとして図書館職員、URA、情報系の職員といった専門性のある職種が挙げられていたが、一般的な事務職員が貢献できるところがあればもっと知りたい」という積極的な感想もあった.

2. 図書館総合展におけるNIIフォーラム「誰がやる？研究データ管理サービス」の中で「九州大学で実施した研究データサービスに関するイベントの経緯とねらい」というタイトルで講演をした．研究データサービスに関する専門的人材の育成の必要性や大学における研究データサービスに関して日本型モデルの構築の必要性について述べた．ディスカッションにおいては大学の他組織との連携が必要であることや研究データの管理や支援に必要な知識・スキル等についても議論した.

6　新たなサービスの創出に関する調査研究

室　　員　石田　栄美（附属図書館研究開発室准教授）
内山　英昭（附属図書館研究開発室准教授）
畑埜　晃平（基幹教育院准教授）
担 当 課　図書館企画課、利用者サービス課

＜研究開発の概要＞

図書館利用状況の分析や国内外図書館の視察等にもとづき，新たなサービスの創出に関する調査研究を行う．また，新たなサービスの可能性として，研究データ管理に関わる検討を行った.

＜研究開発の内容＞

1. 国際会議へのオンライン参加（石田）

図書館業界の最新情報や動向について情報収集するため、下記の国際会議に参加した．令和２年度は多くの国際会議がオンラインで開催されており、現地へ訪問せずとも参加することができた.

- JCDL 2020 (ACM/IEEE Joint Conference on Digital Libraries 2020)（令和2年8月1日～8月5日）
- ALISE 2020 Annual Conference (Association for Library and Information Science Education Annual Conference 2020)（令和2年10月19日～10月23日）
- ASIS&T Annual Meeting (83rd Annual Meeting of the Association for Information Science and Technology)（令和2年10月22日～11月1日）
- ICADL 2020 (The 22nd International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries 2020)（令和2年11月30日～12月1日）
- NTCIR-15 Workshop (NII Testbeds and Community for Information Access Research)（令和2年12月8日～12月11日）
- iConference 2021（令和3年3月17日～3月31日）

2. 研究データ管理に関連するサービスを検討するために，ライブラリーサイエンス専攻の学生とともに，以下の研究を行った（石田）.

・米国の大学図書館ウェブサイト調査をもとに、大学図書館における研究データ管理サービスを調査し、日本の大学図書館における適用を検討した.

・生命科学分野を対象に実験から得られる研究データの管理の実態をインタビューにより把握し，研究データの管理についての課題，今後の方向性について検討した.